

## ニプロホルダーS

### 再使用禁止

#### 【禁忌・禁止】

##### 1. 使用方法

###### 1) 再使用禁止

2) 未滅菌の真空採血管と組み合わせて使用しないこと。

3) 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針と組み合わせて使用する場合の禁忌・禁止

(1) 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針以外の採血針等と組み合わせて使用しないこと。

(2) 採血終了後、採血管に採血針が刺さったままの状態で駆血帯を外さないこと。〔駆血帯を外すことによる圧力の変動により、採血管内の内容物等が患者の体内に逆流するおそれがある。〕

(3) ホルダは患者ごとの使用とし、使用後は廃棄すること。〔ホルダに血液が付着した場合は、交差感染のおそれがあるため。〕

4) 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針以外の採血針と組み合わせて使用する場合の禁忌・禁止

(1) 駆血帯を装着した状態で採血管をホルダに挿入しないこと。〔駆血帯を装着した状態で採血を開始し、採血後、採血管を挿入した状態で駆血帯を外した場合、静脈血圧が急激に低下し、採血管内の内容物等が患者の体内に逆流するおそれがある。〕

(2) ホルダは患者ごとの使用とすること。〔ホルダに血液が付着した場合は、交差感染のおそれがあるため。〕

9) 採血終了後、採血管を本品から抜去した後に駆血帯を外します。  
10) 使用後は感染防止に注意し、そのまま廃棄します。

2. 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針以外の採血針と組み合わせて使用する場合の使用方法

1) 包装を開封し、本品を取り出します。

2) 採血針の保護キャップを外して、針基を本品にねじ込みます。

3) 駆血帯をかけた後に、皮膚の消毒等を行います。

4) 本品を持ち、真っ直ぐ引くようにして採血針のプロテクタを外し、血管へ穿刺します。

5) 採血針を血管に穿刺したら、採血管を装着する前に駆血帯を外します。

6) 採血管を本品に真っ直ぐ完全に押し込みます。

7) 規定量の血液が採れるまで状態を保ちます。

8) 採血の血流量が停止したら、直ちに採血管を本品から外します。

9) 連続採血する場合には、本品を固定したまま採血管を取り替えます。

10) 採血が終わったら、注意して抜去し、止血します。

#### 【使用上の注意】

##### 1. 重要な基本的注意

1) キャップ部の外径が17.5mm以上の採血管と本品を組み合わせて使用しないこと。特に他社の太径採血管を使用する場合は、使用の可否について本品の問い合わせ先に確認すること。〔採血管を引き抜くときにキャップ抜けのおそれがある。〕

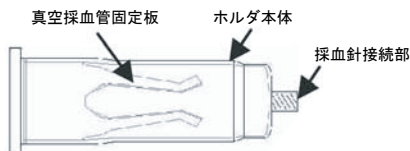
2) 使用後は、採血針を外すことなく直ちに安全な方法で廃棄すること。

3) 体外循環回路、又は中心静脈から採血を行わないこと。〔圧力の変動により、採血管内の内容物等が患者の体内に逆流するおそれがある。〕

4) 本品は合成樹脂製品のため、温度が低下するにつれて強度が低下することから取扱いには注意すること。〔破損のおそれがある。〕

#### 【形状・構造及び原理等】

##### 1. 形状・構造



#### 【使用目的又は効果】

真空採血システムの一構成をなすものであり、採血針等を穿刺する際に、固定及び安定化させる用具である。採血針を嵌合し、固定した後、当該ホルダ内に真空採血管を挿入することによって、採血が開始される。

#### 【使用方法等】

1. 耐圧性能を有するゴムスリーブ付採血針と組み合わせて使用する場合の使用方法

1) 包装を開封し、本品を取り出します。

2) 採血針の保護キャップを外して、針基を本品にねじ込みます。

3) 駆血帯をかけた後に、皮膚の消毒等を行います。

4) 本品を持ち、真っ直ぐ引くようにして採血針のプロテクタを外し、血管へ穿刺します。

5) 採血針を血管に穿刺したら、採血管を本品に真っ直ぐ完全に押し込みます。

6) 規定量の血液が採れるまで状態を保ちます。

7) 採血の血流量が停止したら、直ちに採血管を本品から外します。

8) 連続採血する場合には、本品を固定したまま採血管を取り替えます。

#### 【保管方法及び有効期間等】

##### 1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

##### 2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと。

有効期間：製造後3年〔自己認証（自社データ）による〕

#### 【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

\*製造販売（お問い合わせ先）

ニプロ株式会社

フリーダイヤル：0120-226-410

受付時間：9:00～17:15（土・日・祝目を除く）

製造

ニプロ医工株式会社